

平成28年度 福岡市立愛宕浜小学校 学校評価(公表用)

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
○元気なあいさつが響き合い清掃が行き届いた学校 ○教師と子ども相互が共に信頼し合い和やかさの中にも規律ある学校 ○子ども一人一人を全職員で見守り育てようとする学校 ○相手の立場を理解し、協力して共に伸びる子ども ○意欲的に学習し、よく考え、創意工夫する子ども ○心身の健康づくりに励み、明るく元気に行動する子ども ○子どもが「わかった」「できた」という喜びを自分の喜びにできる教師 ○子どもの目を見て話を聞き公平に温かく愛情を持って接する教師 ○授業を互いに見せ合いながら積極的に学び授業の工夫改善に努力する教師		基礎学力に比べ、汎用的能力の育成が不十分である。	「体験から学びへ」をスローガンに、3年生以上の学年でプロジェクト学習による自ら考え学ぶ学習を構築する。それにより、思考力・判断力・表現力等の汎用的能力の育成を図る。
		生徒指導や特別支援の中心となっていた教員の異動により、生徒指導が十分に機能しないことが予想される。	本年度中に、特別な配慮や支援を必要とする児童の情報共有を図る。また、適材を適所に配置する。加えて、本年度と同様、校内支援委員会や生徒指導委員会の機能充実に努め、常に落ち着いた状態を確保する。
		来年度も若手教員等、日常業務の遂行にあたっては研修が必要な教員が多いことが予想される。	本年度と同様に、必要な研修や支援を充実させる。特に、「ワーク・ライフ・バランス」に気を配り、職員のメンタルヘルスとモチベーションの高揚を図る。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
確かな学力の育成	学期ごとのまとめのテストで国語・算数共に平均得点80点以上を実現する。	全国学力学習状況調査や福岡市学習定着度調査の結果から見ると、4年生以上の学年で、全国平均を上回る結果を得ている。このことから、学力状況はとても良好であると考えられる。また、就寝時間は遅いがSNS等に費やす時間は少ないことに加え、ニュースや読書に向けた時間も多いため、学習状況も良好であると判断できると考えられる。学校の内部評価はそれほど高くないが、保護者からは学習状況の面で高い評価をいただいたことから、概ね指標をクリアしたと考える。以上のことから、確かな学力の育成の面では、目標を概ね達成できたと考えられる。ただし、日常の児童の表現力には課題が残っており、指導の充実を図る必要がある。	
	低学年の早い時期から自学を奨励する。結果として、4年生以上の自学実施率90パーセントを達成する。		
	日々の授業のユニバーサルデザイン化に着手する。結果として、「授業がわかりやすい」と回答する児童80%を達成する。		
	日々の授業における言語活動を大切にする。結果として、授業中に自分の思いや考えを表現できていると考える子ども60%を達成する。		
生徒指導の充実	挨拶指導の徹底を図る。結果として、児童の自己評価・保護者の評価ともに80%を達成する。	きもちのよい挨拶をする子どもが多くなったという感触を得ている。教師の自己評価は必ずしも高くないが向上傾向にある。清掃についての保護者満足度は約90%、教師の指導に関する満足度も90%を超えている。欠席児童については、朝の早い段階で実態を把握し、100%連絡をとれた。加えて、特別な配慮や支援を必要としている子どもも少なくはなかったが、大きな問題を引き起こすことはなかった。これは、事前に十分な手立てを講じることができたからだと考えている。以上のことから、生徒指導については、指標に照らしてそれを上回る成果を得たと考えている。	
	清掃指導の徹底を図る。また、自発的な活動を奨励し、4年生以上のボランティア登録者30%を達成する。		
	児童のサインに対し敏感に反応する。特に、欠席児童に対しては、100%連絡を取り、状況を把握する。		
	校内支援委員会を毎月(必要に応じて複数回)開催し、配慮を要する児童への経過観察と働きかけを継続的に実施する。		
研修の充実・深化	教育情報や学校経営の方針、授業づくりのヒント等を記した校長通信を20回を目途に発行する。	校長通信は、目標の20回を大きく超えて発行した。その意も相応に伝わったと確信している。また、各種研修は計画通り着実に進められた。特に、12月24日に開催したプロジェクト型意見交換は好評で、それをもとに来年度の方向性を明示できたことは大きな成果であると考えている。今後とも、管理職が先頭に立ち、若い先生達を支援していきたい。	
	全教員が少なくとも1年に1回は研究授業を行う。		
	若手教員のスキルアップを目的とした研修会を年3回以上実施する。		
	職員のメンタルヘルスと協働意識の向上を図るためのワークショップ型「プロジェクト研修」を実施する。		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<学力の面では> 英語教育推進校として先進的な授業が展開され成果をあげていること、学力調査で全国平均を上回る結果を得ていることに満足している。学校が課題であると考えている表現力の育成については、日常的に発言する場面を増やしたり意見を述べやすい雰囲気をつくる等の努力を重ねて欲しい。 <生徒指導の面では> 子どもたちがよく挨拶をしてくれるようになったことや清掃が行き届いている点を評価したい。いつも学校を見回っているが、環境が美しく整えられており、ごみもほとんど落ちていない。子どもは環境によって育つと言われる。生徒指導の充実のためにも美しい環境を維持して欲しい。また、会議の中でいじめの事例が報告された。いずれも大きな問題点を含んでいるとは思わないが、その根絶をめざし、学校側には適切な情報収集と指導を求めたい。 <研修に関しては> 若手教師が多い中、学校がうまく運営できている背景に研修の充実があることがよくわかった。学校だよりや教育通信を見ると、校長が何を考え学校をどの方向に向けようとしているかがよくわかった。学校経営は科学的かつ明確である。今後の発展に期待したい。			